展示資料 ゲッティー美術館所蔵イヴォンヌ・レイナー・コレクションのうち『Trio A』、『Chair/Pillow』を巡る記録写真、スコア、公演ポスター、レイナーによる振付メモ、『グランド・ユニオン・ドリームズ』（1971年初演）2010年再演記録資料／ポストモダンダンス関連の書籍／『The Mind is a Muscle』の舞台再構成　など

2017年 **10月11日(水)–15日(日) 12:00–18:00**

料金 入場無料・予約不要　**会場** 京都芸術劇場春秋座

京都造形芸術大学
〈舞台芸術作品の創造・
受容のための領域横断的・
実践的研究拠点〉
二〇一七年度 共同研究プロジェクト
「老いを巡るダンスドラマトゥルギー」

イヴォンヌ・レイナーを巡る パフォーマティヴ・エクシビジョン

ポストモダンダンスの歴史を作り、コンテンポラリーダンス界においても大きな影響力を持つニューヨーク・ジャドソン教会派を代表する振付家・ダンサー、イヴォンヌ・レイナー。

二〇〇〇年代からは、ダンスにおける「老い」を実験的テーマとするダンス作品を創り続けています。二〇一六年度から継続する研究プロジェクト「老いを巡るダンスドラマトゥルギー」では、第一回の公開研究会として、レイナーについてのドキュメンタリー映画上映とディスカッションを二〇一七年三月に開催しました。二〇一七年度は、イヴォンヌ・レイナー作品を中心とした資料、映像、当時の舞台、再構成されたパフォーマンス／ワークショップ、レクチャーからなるパフォーマティヴ・エクシビジョンを京都芸術劇場春秋座の空間で開催します。これは、春秋座を美術館として用いる、ダンスの継続展示上演という試みです。ポストモダンダンスを辿るアーカイヴは日本の伝統演劇の歴史が生きる祝祭空間、春秋座によって、どのように息を吹き返すでしょうか。

© Yvonne Rainer

Performance photograph of Trio A. Dancers: Yvonne Rainer, Steve Paxton, Lucinda Childs, Carolyn Brown, Barbara Lloyd, Sally Gross, Pamela Tanowitz. Photo: Nancy Lassalle. Courtesy Paris Cooper Gallery, New York, NY.

展示期間中プログラム

1. イヴォンヌ・レイナー『Trio A』『Chair/Pillow』ショーイング

2017年10月12日(木)、14日(土) 16:30-17:00

※出演者詳細はウェブサイトにて発表します。

レイナーによる1960年代の代表作『Trio A』(1966年初演)及び『Chair/Pillow』(1969年初演)を、2010年よりイヴォンヌ・レイナーと共に活動するEmmanuèle Phuon氏をコーチングに迎え、関西のダンサーとのワークショップを経てショーイング上演します。
10月11日(水)には、ワークショップも展示空間にて開催します。

2. 映像上映

2017年10月13日(金)

※詳細な上映スケジュールはウェブサイトにて発表します。

『フィーリングス・アー・ファクツ ～イヴォンヌ・レイナーの生涯～』

2015年　86分　米国　日本語字幕付
監督:ジャック・ウォルシュ／字幕制作:アテネ・フランセ文化センター
出演:イヴォンヌ・レイナー、スティーヴ・パクストン、シモーネ・フォルティ、ルシンダ・チャイルズ、キャロリー・シュニーマンほか

2017年3月に本研究会で日本初公開を迎えた、イヴォンヌ・レイナーのドキュメンタリー映画。

『Five Easy Pieces』

1969年　48分
米国　白黒サイレント
監督:イヴォンヌ・レイナー

"Hand Movie" 1966年 5分
"Volleyball"(Foot Film) 1967年 10分
"Rhode Island Red" 1968年 10分
"Trio Film" 1968年 13分
"Line" 1969年 10分

1966年から1969年にかけて撮影されたレイナーの5つの初期短編映画。
『The Mind is a Muscle』内でも上映されたもの。

『After Many a Summer Dies the Swan: Hybrid』

2002年　31分　米国
振付:イヴォンヌ・レイナー

ミハイル・バリシニコフの「ホワイト・オーク・ダンス・プロジェクト」に振り付けたレイナーのダンス作品と、オスカー・ココシュカ、アドルフ・ロース、アーノルド・シェーンベルク、ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインによるテキストを組み合わせ構成した映像作品。

3. レクチャー

2017年10月15日(日)15:00-18:00

登壇者:
越智雄磨(早稲田大学演劇博物館招聘研究員)
外山紀久子(美学・舞踊論、埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授)
三輪健仁(東京国立近代美術館主任研究員)
中島那奈子(ダンス研究・ダンスドラマトゥルク)

イヴォンヌ・レイナーは1966年に、『The Mind is a Muscle』というパフォーマンスの中で初めて『Trio A』を発表しました。この作品の「レクチャー」という最後の部分では、『Trio A』の振付をレイナーがタップシューズを履いて踊り、その間に天井から舞台途中までグリッド枠が降りてくるというものでした。ここでは、この『Trio A』の「レクチャー」を踏まえて、春秋座での本パフォーマティヴ・エクシビジョンの最終セクションとして、老いをテーマに私たちの時代の、ダンスの「レクチャー」とは何か、問いかけます。

同時開催

日時：2017年10月12日(木)18:30-（18:00開場）
＊上映終了後、本研究会主催・中島那奈子とゲストを迎えてのトークを行います。

『特権』
1990年　103分　米国　日本語字幕付
監督:イヴォンヌ・レイナー

中年女性の更年期をテーマに性的アイデンティティ、人種、階級の不平等について迫るイヴォンヌ・レイナー監督作品の上映を
同志社大学寒梅館でも同時開催します。

会場：同志社大学寒梅館ハーディーホール(京都市上京区御所八幡町 103　同志社大学寒梅館)
料金：1,000円(予約不要)
『特権』上映に関するお問合せ：同志社大学今出川校地学生支援課
Tel：075-251-3270（平日 9:00–11:30/12:30–17:00、土・日・祝閉室）
E-mail：ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp　http://d-live.info/

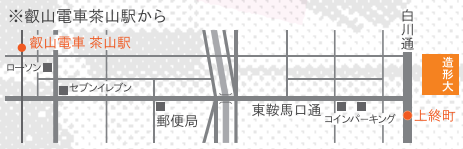
主催：同志社大学今出川校地学生支援課　作品提供：山形国際ドキュメンタリー映画祭

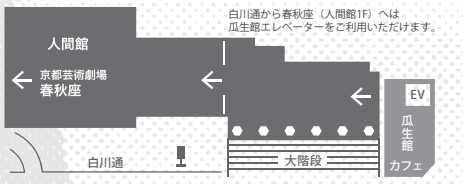
© Dia Art Foundation

Peter Moore, Performance view of Continuous Project - Altered Daily © Barbara Moore/Licensed by VAGA, New York, NY

イヴォンヌ・レイナーを巡る
パフォーマティヴ・エクシビジョン
ウェブサイト

www.k-pac.org/kyoten/guide/20171011yvonne/





◎JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から
京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車
（京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分）
◎京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から
京都市バス204循環に乗車（約15分）、「上終町・京都造形芸大前」下車
◎京阪電車出町柳駅から叡山電車に乗り換え、茶山駅下車（徒歩約10分）
※駐車場はございませんので、お車・バイクでの来場はご遠慮ください。

京都造形芸術大学 共同利用 共同研究 2013 – 2018

「舞台芸術の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点」は、京都造形芸術大学・舞台芸術研究センターが母体となり、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けて 2013 年度に設置された研究拠点です。
www.k-pac.org/kyoten/

KYOTO EXPERIMENT 2017
京都国際舞台芸術祭 Kyoto International Performing Arts Festival

お問合せ 京都造形芸術大学 共同利用・共同研究拠点事務局(舞台芸術研究センター内)(平日 10:00-17:00)
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116　京都造形芸術大学　Tel: 075-791-9144　Fax:075-791-9438

主催：京都造形芸術大学＜舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点＞2017年度　共同研究プロジェクト「老いを巡るダンスドラマトゥルギー」研究代表者　中島那奈子
協力：KYOTO EXPERIMENT　京都造形芸術大学＜舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点＞2017年度研究プロジェクト「ダンス2.0」の環境構築を通して今日的教育という課題へとダンスをつなぐ試み」研究代表者：木村覚（"Trio A" ショーイング）
資料提供：Post Studium / urzen　Flyer Design by Takuya Matsumi　All images from the film "Feelings Are Facts: The Life of Yvonne Rainer"